

主題：神のエコノミーと分与

メッセージ 16

召会の中で生き奉仕して新エルサレムを生かし出し成し遂げることによって、

神のエコノミーにおける神の分与を享受する

聖書：イザヤ 1:1, エレミヤ 33:2-3, 使徒 1:14, 2:46, 6:4,

I コリント 13:4-8 前半, 14:4 後半, 31

- I. 召会はキリストから出て来た純粋な産物です——創 2:21-24, ヨハネ 19:34, エペソ 3:4-5, 5:32 :
- A. 召会は「キリスト的」です—— 30-32 節, II コリント 2:10, コロサイ 2:19, 3:10-11, 詩第 45 篇。
- B. 召会は「復活的」です——創 18:10-15, 21:1-3, 6-7, 民 17:5, ヨハネ 11:25, ピリピ 3:10, 雅 2:2, 8-9, 14, II コリント 3:5-6, 4:7, エペソ 2:6, 3:4, 5:32, コロサイ 2:2-3, I ペテロ 1:3。
- C. 召会は天的です——エペソ 1:3, 2:6, 5:27, I コリント 15:45-47, ヨハネ 3:6, ガラテヤ 5:16, 25-26, 6:7-10。
- II. 上りの歌として、詩篇第 132 篇は召会生活を啓示し、詩篇第 133 篇は神の分与を享受するための召会の生活を啓示しています :
- A. 詩篇第 132 篇は、召会生活における勝利者の状態を描写する七つの項目を述べています。それは、神と共に安息する (14 節)、神と共に住む (14 節)、満足のための食物 (15 節)、栄光の衣服 (16 節)、勝利の角 (17 節)、照らすともし火 (17 節)、輝く冠です (18 節)。
- B. 詩篇第 133 篇は、一の中に共に住む兄弟たちがいる召会について語っています。アロンの頭と彼の衣のすそは、かしらとしてのキリストとからだを表徴します。尊い油は、油塗り拡大する霊を表徴します。ヘルモンの露は、キリストの下って来て浸透する恵みを表徴します。命じられた命の祝福は、命の源としての御父を表徴します——参照、エペソ 4:4-6。
- III. 召会の中で生きることは、新エルサレムを生かし出すことです——啓 2:7, 22:1-2 前半, 14, ヨハネ 6:35, 57, 7:38-39, II ペテロ 1:4 :
- A. 召会の中で生きることは、毎朝こう祈ることで、「主よ、わたしの全焼のささげ物としてのあなたの中で、わたし自身を再びあなたにささげ、あなたのために働くのではなく、あなたを享受します」——レビ 1:2-4, 13, ピリピ 1:19, 3:3, 8-14, 4:4-7。
- B. 召会の中で生きることは、その霊が諸召会に言われることを聞く耳を持って、キリストを愛し追い求める者となることです——I コリント 2:9-16, II コリント 5:14-15, 啓 2:7。
- C. 召会の中で生きることは、神の増し加わりによって召会の中で成長し、すべての事がかしらとしてのキリストの中へと成長し込むことです——コロサイ 2:19, エペソ 4:15-16。

- D. 召会の中で生きることは、わたしたちの霊的な更新する恵みの供給のために日ごとに主を呼吸し、食べ、飲んで、この恵みが他の人の中へと分与されることができるようです——ヨハネ 20:22. 6:31, 57. 7:38-39. エペソ 3:2. I ペテロ 4:10-11. 啓 2:7. 22:1-2, 14. イザヤ 55:1-2, 6-7。
- E. 召会の中で生きることは、神の言葉の真理で構成され、神を見て、神を取り入れ、神を表現することです——I テモテ 3:15-16. II テモテ 2:15. マタイ 5:8。
- F. 召会の中で生きることは、互いに愛し合うことです——ヨハネ 13:34-35. I ヨハネ 3:11. 4:8. I コリント 13:4-8 前半。
- G. 召会の中で生きることは、互いに赦し合うことです——マタイ 16:18. 18:21-35. エペソ 4:32. コロサイ 3:13。
- H. 召会の中で生きることは、命における成長によって召会の中へと建造し込まれることです——エペソ 2:21-22. 3:16-19。
- I. 召会の中で生きることは、キリストによって神の家へと、神の家の中で、神の家のために牧養されることです——I ペテロ 2:25. 詩第 23 篇。

IV. 召会の中で奉仕することは、新エルサレムを成し遂げることです——I コリント 3:6-9, 12, 16-17. ピリピ 1:19-25. 啓 21:18-21 :

- A. 主は奉仕する方としてわたしたちの中にいます——マルコ 10:45. ルカ 22:26-27. 12:37。
- B. 召会の中で奉仕することは、主からの負担をもって奉仕することです。神に対して開かれた霊は、彼の負担を受け入れるための条件です——マタイ 5:3. 使徒 22:8, 10 :
 - 1. わたしたちは主との親密な交わりにおける祈りを通して、負担を受け入れ負担を解き放つことを学ばなければなりません——ルカ 1:53. 詩 27:4. イザヤ 59:16。
 - 2. 祈りと働きは分離することができません。祈りなしに働きはありません——コロサイ 4:2. エレミヤ 33:2-3. イザヤ 62:6-7. 使徒 6:4。
 - 3. 神はわたしたちに祈りの負担を与えるなら、それが言い表されることを願います。負担はただ言い表すことを通して解き放たれます——マルコ 7:29. ヘブル 5:7。
 - 4. もしわたしたちが家で声を出して祈ることができないなら、主のように自分の負担を言い表す場所を見つけましょう。たとえ低い声で祈ることを意味するのであっても、わたしたちは聞こえるように祈るべきです。神はわたしたちの負担がはっきり話されることを願っています——マルコ 1:35. ルカ 6:12. 詩 4:1. 5:1-3. 77:1. 102:1. 116:1. 142:1. 雅 2:14。
 - 5. 預言者が受けた啓示は、彼らが受けた負担でした。負担なしに、召会を建造するための言葉の務めはなく、預言することはありません——イザヤ 1:1. 2:1. 13:1. 15:1. ゼカリヤ 12:1. マラキ 1:1. 使徒 6:4. I コリント 14:3, 4 後半, 31。
 - 6. わたしたちの負担は、人に対する神の啓示を解き放つことです。神の啓示は、神がわたしたちに与える啓示の言葉を通して解き放たれます——2:11-16。
 - 7. わたしたちが神の言葉を供給するとき、わたしたちの関心は、わたしたちが自分の語りかけの主題ではなく、神の語りかけを持っているかどうかでなければなりません。神の語りかけを持つために、言葉を供給する人は負担を持たなければなりません——マラキ 2:7。

8. 言葉を供給する者は、神の御前で人の状態を抱き、彼らの状態を感じ、神が語りたいことを知らなければなりません——出 28:29-30。
 9. 召会の行政における、また言葉の務めにおける最大の問題は、主からの負担を持たないことです。
 10. 負担がなければ、わたしたちのすべての活動は死んでおり、効果がありません。負担があれば、わたしたちは生きており繁栄します。
 11. 負担を持つことはわたしたちを最大限に対処します。負担があるなら、自己は減少し対処されます。なぜなら、わたしたちの負担がわたしたちに行なわせないものがあり、わたしたちが自分の負担を解き放つことができる前に、わたしたちが対処されることを必要とする領域があるからです。
 12. もしわたしたちが負担を持って奉仕するのではなく、義務にしたがって奉仕するなら、そのような奉仕はわたしたちに主の臨在を失わせませぬ——参照、マラキ 3:14. 申 4:25。
 13. わたしたちの奉仕が義務を全うする事柄になるときはいつも、わたしたちの奉仕はすでに墮落しています。
- C. 召会の中で奉仕することは、キリストのからだを建造するために霊の中で、また組み合わせの中で一つ思いで奉仕することです——ローマ 7:6. ピリピ 3:3. エゼキエル 1:5-14. 使徒 1:14. 2:46. 4:24. 5:12. 15:25 :
1. わたしたちがからだを見ていることの最大のしるしは、わたしたちが独立することができないことです。パウロが I コリント第 1 章 1 節でソステネを述べているのは、パウロがからだの感覚と組み合わせの霊を持っていたことを見せています。
 2. わたしたちは、からだの組み合わせのために他の人を必要とし、他の人がわたしたちを必要とするという感覚を持っていないので、わたしたちの間で学びの霊と助けを必要とする霊を持っている人はほとんどいません——マタイ 5:3。
 3. わたしたちが互いを必要としない、また交わる必要がないと感じることは、高ぶりの最大の形態です。それは主に対して、またからだに対して最も罪を得る事です。もしわたしたちが他の人との組み合わせに欠けるなら、彼らが行なうことを常に批判するでしょう。
 4. わたしたちは言葉を供給し、交わり、祈るとき、他の人を批判すべきではありません。特に、わたしたちは人と一緒に祈るとき、相反する方法で祈ることを避けるべきです。
 5. わたしたちは常に、他の人を尊重し、組み合わせされ、協力する態度を持つ必要があります。わたしたちは自分の分にしたがって他の人に仕えるべきであり、他の人の分を尊ぶべきです。なぜなら、いずれの分も主によってわたしたちに託されているからです。あらゆる人はへりくだり、自分の分を他の人の分より高く考えないようにすべきです——ピリピ 2:3-4。
 6. わたしたちは、砕かれ、他の人に適合し、他の人の機能を尊重する学課を学ぶ必要があります。このようにしてはじめて、わたしたちはからだの感覚を保ち、わたしたちの間の建造を生み出すことができます。
 7. わたしたちはみな一つ魂になって、メッセージを語っているすべての人のために

- 祈り、供給し、支えるべきです。もし主に仕える者が一つ思いになるのではなく、絶えず同意していないなら、敵、聖徒たち、子供たちでさえそれを知ります。
8. わたしたちは聖徒たちに、わたしたちの語りかけが他の人の語りかけより高いという印象を与えるべきではありません。そうではなく、聖徒たちは、わたしたちの語りかけが他の人の語りかけと調和しているという印象を持つべきです。
 9. ある兄弟が語る時、何人かは批判的になって心の中で、「わたしはこれをすでに知っている」と言うかもしれません。このような霊は神の働きに破壊をもたらします。
 10. 奉仕する者たちの間に建造が欠けている原因は、彼らが互いに対する愛に欠けていることです。わたしたちに対する主の言葉とわたしたちのための主の祈りは、互いに愛するということでした——ヨハネ 13:34-35. 15:12, 17。
 11. 奉仕する者たちの間には特別な愛があるべきです。互いに対するそのような愛は、わたしたちが主と一であることから来ます。
 12. 長老と同労者は互いを牧養し合い互いに愛し合って、からだの生活の模範となるべきです—— 21:15-17. I ペテロ 1:22。
 13. わたしたちは霊を活用し解き放って一つ思いで祈ることによって、共にブレンディングされる必要があります——マタイ 18:19. 使徒 1:14. 詩歌, 614 番。
- D. 召会の中で奉仕することは、義と平和と聖霊の中の喜びとしてのキリストを享受することです。「このようにキリストに仕える者は、神に喜ばれ、人にも良しと認められます」——ローマ 14:17-18。
- E. 召会の中で奉仕することは、預言する生活をして、流れる三一の神をあふれ流れさせ、神の豊満としての召会を構成することによって、召会を建造することです——ヨハネ 4:14 後半. 7:38-39. I コリント 14:4 後半, 26. エペソ 3:19。
- F. 召会の中で奉仕することは、神にしたがって人々を牧養することです—— I ペテロ 5:1-6。
- G. 召会の中で奉仕することは、快く与える者として神によって愛されることです—— II コリント 9:7。
- V. 召会の中で生き奉仕することは、神の七倍に強化された霊によって、命の木、隠されたマナ、神の永遠のエコノミーを完了するための宴席としてのキリストを食べることを通して、召会の墮落に打ち勝つことです——啓 4:5. 5:6. 2:7, 17. 3:20-21. ゼカリヤ 3:9-10. 4:6。